

主催者挨拶

(社)全国漁港漁場協会 会長 田中潤児



第62回全国漁港漁場大会の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。全国から多数の漁業関係者の参加を頂き、ご多岐に感謝申し上げます。

特に、公務が多忙のなか、橋本牧水産庁漁港漁場整備部長はじめ政府関係者の皆様、白須敏朗 大日本水産会会長、服部郁弘 全国豊かな海づくり推進協会会長(全国漁業協同組合連合会会長)、上原良幸 沖繩県副知事、高嶺善伸 沖繩県漁業協会会長はじめ漁港協会会長はじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、盛大に大会を開催出来ますことは、主催者として誠に光栄に存しております。

また、本大会の開催にあたり、仲井眞弘多 沖繩県知事、上原裕常 糸満市長、

(社)沖繩県漁港漁場協会会長を始めとする沖繩県、沖繩県漁業協同組合連合会、(社)沖繩県漁港漁場協会として関係市町村の皆様にご挨拶申し上げます。

皆様のご協力により、公務が多忙のなか、橋本牧水産庁漁港漁場整備部長はじめ政府関係者の皆様、白須敏朗 大日本水産会会長、服部郁弘 全国豊かな海づくり推進協会会長(全国漁業協同組合連合会会長)、上原良幸 沖繩県副知事、高嶺善伸 沖繩県漁業協会会長はじめ漁港協会会長はじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、盛大に大会を開催出来ますことは、主催者として誠に光栄に存しております。

また、本大会の開催にあたり、仲井眞弘多 沖繩県知事、上原裕常 糸満市長、

漁港(今)の水産生産の整備は、60年前から漁港法が制定された長期計画に基づき、着々と推進されてきました。これまでも関係者のご努力により、漁港の整備は量的にはある程度進み、あわせて漁場や漁村の整備も着実に進められております。これは日本の水産業、漁村が、国民の皆さんに安全、安心で良質な水産物を安定的に提供するための必要不可欠な取り組みであり、沿岸地域の環境の保全、国境監視などの重要な役割を果たしているからであります。しかしながら、資源状況の悪化、燃油の高騰などの加え、不況のよるインフレ、消費マインドの落ち込みによる魚価の低迷など一段と厳しい状況が続いております。また、地震・津波による大規模災害の発生が懸念されており、自然災害に対する脆弱な漁村地域の防衛・危機管理対策も重要な課題となっております。

一方、水産生産の整備は大幅に削減され、水産庁は小規模漁港の整備の抑制を打ち出さざるを得ない状況となっております。

漁村が役割を果たして国民のニーズに答えていくためには、規模の大小を問わず必要な整備を行い、低水準にある水産資源の回復、品質・衛生管理対策の強化や施設の老朽化対策などの漁港機能の改善、漁村の生活環境の充実や防災対策など安全で快適な漁村づくり、そしてこれまでの皆さんの頑張りでできた施設を活用した漁村活性化の取り組みなどを積極的に進めていく必要があります。またこれらの施策・活動の重要性を国民の皆さんに訴えて理解を得ることも重要であります。

ここにお集まりの皆様は、日頃から水産業、漁村の発展に大変ご努力されておられます。本日の大会で議論されます議案や取り組みの重要性を広く国民の皆さんに訴えることも、必要不可欠な取り組みが強力に推進され、日本の水産業が魅力ある産業として大いに発展し将来に希望が持てる豊かな漁村が実現することを目指して、皆様の力を発揮して、一層の団結とご尽力をお願い申し上げます。開会の挨拶と致します。

ありがとうございます。

祝辞 水産庁長官 佐藤正典

代読 水産庁漁港漁場整備部長 橋本牧



代読する橋本部長

本日ここに、全国漁港漁場大会が開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本大会は、漁港・漁場・漁村の整備促進を図るため、昭和24年の第一回大会以来、本年で62回を迎えることとなりました。御参集の皆様方の、漁港・漁場・漁村の整備の促進への御尽力の御多様な御尽力に対し、深く敬意を表する次第であります。

我が国水産業は非常に高い潜在能力を有しており、また、国民の食生活に欠かせない安全で安心な水産物の安定供給という

極めて重要な役割を果たしております。しかしながら、国際的な資源管理の強化や燃油価格の変動等により、我が国水産業は厳しい状況にあります。

農林水産省として、漁港・漁場・漁村の流通の拠点となる漁港における品質や衛生管理体制の高度化、我が国周辺水域における水産環境の整備、漁村の防災対策等を着実に推進していくことが必要と考えており、今後とも、漁港・漁場・漁村の整備の促進に全力で取り組んでいく所存であります。

全国の関係者の皆様におかれましては、引き続き農林水産省の施策の実施に御尽力いただき、また、本日出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のま祝いの言葉をさせていただきます。

祝辞 参議院農林水産委員長 主濱了

メッセージ

第62回全国漁港漁場大会の開催、おめでとうございます。

本日ご臨席の皆様をはじめ、漁港・漁場・漁村の整備に日頃よりご尽力を頂いております関係者の方々に、衷心より敬意を表しますとともに、厚く御礼申し上げます。

皆様ご案内のとおり、我が国は、世界第6位の排他的経済水域を擁する海洋国家であるとともに、周辺水域は豊かな漁場を形成しており、世界有数の漁業生産量を誇る水産王国であります。全国津々浦々まで、多様な魚介類に恵まれ、四季折々に、新鮮でおいしい魚料理が我々を楽しませてくれます。

しかし、平成13年の水産基本法制定以降、TAC制度、TAE制度や資源回復計画などにより、資源管理に努めてまいりましたが、我が国の周辺水域では、サバやイワシなど水産資源の多くが低水準にとどまるとともに、藻場・干潟の減少や磯焼け等により、水産動植物の生育環境が悪化しております。

また、漁業従業者の減少・高齢化が年々進行するとともに、漁業用燃油や養殖用配合飼料の価格も依然として高水準にあり、魚価の低迷と併せて漁業経営を圧迫する事態となっております。

我が国の水産業の将来にとって、憂慮すべき状況が続く中で、今後とも漁業生産を維持・発展させる、新鮮で質の高い水産物を供給していくためには、資源管理の徹底を図ることはもちろん、藻場・干潟の造成等を通じ、水産物の生育環境整備を進め、水産資源の増殖を図っていくことが不可欠であると考えます。

また、安全・安心な水産物を消費者に安定供給するためには、漁港施設等の流通拠点の整備が必要であります。流通拠点の整備は残念ながら縮小傾向にあります。しかし、こうした基盤整備事業については、透明性、効率性を確保していくことが重要であると考えております。

本日は、全国より、浜を熟知しておられる皆様一堂に会され、水産生産の整備促進に関する意見集約が行われると伺っております。私といたしまして、その実現に向け、国会において議論が重ねられるよう、取り組んで参る所存であります。

最後に、本大会のご成功と、皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

祝辞 衆議院農林水産委員長 山田正彦

メッセージ

本日ここに、「第62回全国漁港漁場大会」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本日ご列席の皆様をはじめ、日頃より漁港・漁場・漁村の整備の推進に格段のご尽力をいただいております関係各位に対し、衆議院農林水産委員会を代表して、深く敬意を表する次第であります。

我が国の水産業・漁村は、国民の食生活に欠くことのできない重要な水産物の供給という多様な役割を果たすとともに、国土環境の保全、国境監視、レクリエーションの場の提供など、国民の豊かな生活を支える多面的な機能を発揮しております。しかしながら、今日の我が国の水産業・漁村をめぐる情勢は、水産資源の状況

の悪化、藻場・干潟の減少や赤潮・磯焼け等による漁場環境の悪化、漁業従業者の減少・高齢化による生産構造の脆弱化に加え、燃油価格の変動や世界的な経済の停滞等による影響を受けるなど、極めて厳しい状況にあります。

このような中、水産業・漁村の再生を図るためには、水産政策を抜本的に転換していくことが不可欠であり、思いきった水産予算が必要となります。

このため、平成23年度概算要求では、計画的に資源管理に取り組み漁業者を対象に、共済・積立から安定仕組を構築し、コスト対策であるセーフティネット事業と組み合わせ、総合的な所得補償を実現する「資源管理・漁業所得補償対策」の導入に向けて、557億円の予算要求がなされております。これにより、適切な資源管理と漁業経営の安定をともに実現し、漁業者が将来にわたって持続的に経営を維持できるようにしていきます。

また、水産物の安全・安心の確保を図る観点から、水産品についてもハッシュアップ・サビリティシステムを導入し、加工食品の原料産地の表示義務の拡大を推進していく必要があります。

さらに、漁村において加工・流通部門までを取り込んだ「漁村の六次産業化」を推進することにより、漁村の新たな価値を生み出し、雇用や所得の確保を図っていくことが重要であります。このようなとき、全国の漁港・漁場・漁村の関係者が一堂に会され、漁業地域の振興・発展等に向けて決

意を新たにされますことは、まことに意義深いものがあります。

私も衆議院農林水産委員会として、皆様方のご意思を体し、水産業・漁村の再生のための施策の構築に向けて、活発な議論を展開してまいります。

最後に、本大会のご成功と皆様方のご健康を心からお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

祝辞

皆さん、おはようございます。ただ今、ご紹介賜りました大日本水産会の白須です。

本日は第62回全国漁港漁場大会の30年ぶりの沖縄県での開催、誠にありがとうございます。全国の水産関係者ともども心からお慶び申し上げます。私ども水産関係者の使命は何かと考えてまいります。



と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

祝辞

本日ここに、第62回全国漁港漁場大会が開催される



と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

水産物輸出に大きな可能性

（社）大日本水産会会長 白須敏朗

と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

漁港整備はますます重要に

（社）全国豊かな海づくり推進協会会長 服部郁弘

と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

に増加しています。特に沿岸域の所得の高い層を中心に魚を獲って食べ始めています。また米国、EUでも魚価も安い、一方、燃油をはじめとするコストが高止まりなど、いい話がありませぬ。閉塞感がある中で、全国の水産関係者は一生懸命、消費者に対する安定供給に汗を流しております。

歓迎のことば

離島活性化のために漁港整備を

沖縄県知事 仲井真弘多
(代読) 沖縄県副知事 上原良幸



と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

と、何と言っても国民、あるいは消費者に対する水産物の安定供給に尽きるわけです。この私ども水産会の根っこを担っていたいたいでいるのが、まさに本日、全国からお集まりの漁港漁場関係の皆様方です。皆様方の日頃のご努力があったからこそ、水産業が成り立ち、そして国民への安定供給も行えるわけです。あるいは水産業の基盤がよって立つ漁村の活性化においても、漁港漁場の果たす役割は極めて大きいものがあります。

第62回全国漁港漁場大会出席来賓一覧 (順不同、敬称略)

- 水産庁漁港漁場整備部長=橋本牧、
- 水産庁漁港漁場整備部整備課補佐=内田智
- 水産庁漁港漁場整備部計画課係長=藤島弘幸
- 水産庁漁港漁場整備部防災漁村課=中村元太
- (社)大日本水産会会長=白須敏朗
- (社)全国豊かな海づくり推進協会会長=服部郁弘
- 漁船保険中央会会長=上野新作
- 全国漁協女性部連絡協議会会長=宇都鈴江
- (財)漁港漁場漁村技術研究所理事長=影山智将
- (社)水産土木建設技術センター理事長=鹿田正一
- (財)漁船海難遺児育英会専務理事=佐藤信三
- (財)日本海洋リサーチ安全・振興協会振興事業部長=立石学
- 漁港漁場新技術研究会会長=坂井淳
- 漁村水環境研究会会長=山田康夫
- 全日本漁港建設協会事務局次長=尾形宏美
- (社)全国漁港漁場協会顧問=福屋正嗣
- 特殊法人韓国漁村漁港協会会長=沈好鐘
- 同協会漁港本部長=黄哲沢
- 同協会経営本部課長=李俊豪
- 同協会経営本部代理=朴政煥

【沖縄県】

- 県副知事=上原良幸
- 県議会議長=高嶺善伸
- 内閣府沖縄総合事務局農林水産部長=高柳宏充
- 内閣府沖縄総合事務局林務水産課長=岡本章
- 沖縄県農林水産部農漁村基盤統括監=知念武
- 沖縄県漁業協同組合連合会会長=國吉眞孝
- 糸満市長=上原裕常
- 糸満市議会議長=上原勲
- 沖縄市長=東門美津子
- 沖縄市議会議長=仲宗根弘
- 宜野湾市長代理市民経済部長=新城正一
- 宜野湾市議会議長=吳屋勉
- 恩納村長=志喜屋文康
- 恩納村議会議長=山城郁夫

第62回全国漁港漁場大会祝電一覧 (順不同、敬称略)

- 衆議院議員=下地幹郎
- 衆議院議員=玉城デニー
- 衆議院議員=赤嶺政賢
- 参議院議員=山内徳信
- 社団法人日本水産資源保護協会会長=川本省自

次回は青森県で開催



(社)青森県漁港漁場協会副会長 植村 正治

次回大会開催県協会挨拶

青森県漁港漁場協会副会長で青森県漁連会長の植村でございます。

本日は、第62回全国漁港漁場大会が、ご当地宜野湾市におきまして、かくも盛大に開催されましたことに対し、まずもって心からお慶び申し上げますと共に沖縄県民の更なる安泰を御祈念致します。

さて、来年度の第63回大会は、10月20日、23年ぶりに我が青森県において開催が予定されておりまして、関係者が総力を挙げて準備を整え、皆様方を全国各地からお迎えする決意であります。

スルメイカ、マグロ、ホタテなど

多種多様な水産物を生産

水産県青森をアピール

大間のまぐろ一本釣り、「むつ湾は世界的なはたて貝養殖の発祥地」であり、日本海で

水産県としての青森県は、「太平洋ではスルメイカ漁業」、「津軽海峡は

鯛などのほか、水揚げ日本一の記録を保持しているひらめ等、四つの海に囲まれて多種多様な水産物が生産されておりまして、大会が開催される頃には津軽の霊峰・岩木山の麓のリンゴは赤く色づき、雪中行軍で有名な八田連峰や世界遺産の白神山は紅葉の真っ盛りであり、又、多くの温泉地を有する等々、海山の恵み豊富な本州最北端の青森へ、どうぞおいで下さい。

幸い、来る12月4日より東北新幹線が三時間余で東京と結ばれ、その他青森、三沢の二つの空港が有りますので、何卒ご利用の上、御来県をお待ち申し上げ、次回大会開催地の御挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

漁船海難遺児育英募金

～多くの参加者が募金～

募金活動の様子



全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英募金」活動が恒例となっている。今大会においても助漁船海難遺児育英会が佐藤信三専務理事を先頭に、地元沖縄県漁連の職員を協力を得て大会会場において募金活動を行った。

多くの参加者が募金活動に答え、大会が始まる頃には多くの参加者が胸に「水色の羽」を付けていた。



開会のことばを述べる志喜屋文康(社)沖縄県漁港漁場協会副会長 (恩納村長)



閉会のことばを述べる宮城宏(社)沖縄県漁港漁場協会監事 (糸満漁協組合長)



発言する高橋昌幸北海道漁港漁場協会副会長 (神恵内村長)



会場内での募金活動の様子



多くの参加者が募金に応えた

歓迎レセプション

大会前日の10月27日の午後5時30分から那覇市の「沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ」において、(出)沖縄県漁港漁場協会、(出)全国漁港漁場協会の共催で歓迎レセプションが開催され、上原裕常(出)沖縄県漁港漁場協会会長(糸満市長)が主催者を代表して挨拶、仲井真弘多(出)沖縄県知事の代理として知念武(出)沖縄県議会議長の発声で乾杯が行われた。

続いて、高柳充宏(内)閣府沖縄総合事務局農林水産部長、沈好鎮(特)特殊法人韓国漁村漁港協会会長が来賓の挨拶を行った。

参加した関係者は、沖縄県立芸術大学の学生とOBによる琉球芸能を楽しむなど和やかに歓談し、大会前日のひとときを楽しんだ。



歓迎する上原裕常(出)沖縄県漁港漁場協会会長

乾杯の発声をする高嶺善伸(出)沖縄県議会議長



挨拶する下地敏彦(出)沖縄県漁港漁場協会展事(宮古島市長)



琉球舞踊(谷茶前)



琉球舞踊(四ツ竹)



歓談風景



挨拶する沈好鎮(出)韓国漁村漁港協会会長

会場入り口風景



第62回 全国漁港漁場大会
平成22年10月28日



沖縄物産展示コーナー



開会前の会場風景



糸満漁港視察の様子



泡瀬漁港で説明を受ける韓国協会の皆さん

入賞作品決定!

2010漁港漁場漁村海岸写真コンクール

(出)全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催、(財)漁港漁場漁村技術研究所と(財)水産土木建設技術センターの協賛、水産庁後援による2010漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第62回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は9月8日に行われ、入賞作品がパンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選1席(農林水産大臣賞)1点、特選2席(水産庁長官賞)1点、特選3席(全国漁港漁場協会賞、全国漁港海岸防災協会賞、漁港漁場漁村技術研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞)各1点、入選5点、佳作10点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。



特選1席

農林水産大臣賞



特選2席

水産庁長官賞



特選3席

全国漁港海岸防災協会賞

全国漁港漁場協会賞



漁港漁場漁村技術研究所理事長賞



水産土木建設技術センター理事長賞

2010漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞者

入賞	題名	氏名
特選1席	天日干し	石川 賢一 (高知県高知市)
特選2席	蛸捌き	高木 志津夫 (福島県いわき市)
特選3席	杜健	松井 文郎 (三重県志摩市)
特選3席	祭の人気者	近藤 吉真 (愛知県田原市)
特選3席	大きな獲もの	太田 誠二 (新潟県新潟市)
特選3席	磯漁	齊藤 芳正 (神奈川県横須賀市)
入選	干潟模様	村上 泰雄 (愛媛県新居浜市)
入選	朝霞の出港	吉野 耕司 (京都府舞鶴市)
入選	漁場を目指す	中尾 盛幸 (大阪府阪南市)
入選	初鯉水揚げ [組写真]	伊藤 良一 (神奈川県平塚市)
入選	海女の祈り	亀谷 宏 (千葉県八千代市)
佳作	港の朝	小澤 宏 (神奈川県小田原市)
佳作	小名浜漁港	門林 泰志郎 (福島県いわき市)
佳作	金目だい大漁 [組写真]	坂本 義治 (東京都足立区)
佳作	瀬戸の町	高取 一巳 (広島県府中町)
佳作	3代目は男の子	岡村 廣治 (三重県鳥羽市)
佳作	凍てつく漁村	福田 修逸 (青森県蓬田村)
佳作	早朝の太陽と漁船	椎野 清一 (北海道釧路町)
佳作	小休止	有田 勉 (岩手県宮古市)
佳作	何かくれるかな	廣瀬 綾子 (大阪府和泉市)
佳作	かけ声合わせて	藤本 京子 (千葉県千葉市)

